

令和 8 年度

社会福祉法人和順共生会

特別養護老人ホーム和順の里事業計画書

社会福祉法人和順共生会運営の理念

○ 共生（ともいき）思想を基礎に、共生社会の実現を目指す

- ① 共生（ともいき）思想とは、「私のいのちが、他のいのちによって生かされており、また私が生きる意味は、他のいのちを生かすことによって実現する」ということを内容としており、一人一人がお互いを認め合い、お互いを大切にし、ともに支えあって生きるということをお互いにあきらめている。
- ② 共生（ともいき）とは、「赤い色は、赤く輝き、黄色い色は、黄色く輝き、白い色は白く輝くということ」であるといわれているように、決して一人一人の個性を抑えて、お互いの協調を図るということではなく、協調の中からもその人らしさが発揮されるものである。
- ③ 共生（ともいき）は、入居者同士だけのものではなく、入居者と職員、職員同士の共生、そして地域社会との共生をも目指すものである。

○ 高齢期において介護が必要になっても、高齢者一人ひとりの個性が生かされ、生活への意欲を引き出せる、生きがいあふれる生活文化に基づく共生生活の場を創造する

- ① 特別養護老人ホームの入居者は、「身体上または精神上著しい障害があるために常時介護を必要とする」人々である。まずは、生活を支えるための介護を丁寧に行うことが大切である。
- ② 介護が重要だからといって、介護を受けるだけの生活になってはならない。生活には、介護以外の沢山の要素がある。一人一人が、安心して過ごせる生活の場の提供と意欲と希望の持てる、尊厳のある生活を目指すものである。

○ これまでの高齢者福祉の到達点をふまえて、生活する高齢者が主人公となるよう社会福祉援助技術を探求し、21 世紀の社会福祉援助技術の発展、福祉教育の充実に資する臨床の場を目指す

- ① 職員は、入居者一人一人のよりよき生活を支えるため、日々発展する新しい知識を蓄え、また、介護技術の向上を図るため、職員は常に研鑽に努める。
- ② また、実習生やボランティアを受け入れ、介護の本質を伝えるとともに、福祉教育の充実のために役立つ実習の場とする。

和順の里は開設して20年以上経過しております。今まで高齢者問題・人口減・感染対策をしながら施設は行ってまいりました。令和8年度は、さらに日本の経済に合わせた物価高騰も対応しながら施設は行っていかなければなりません。「和順の里の基本理念」を守り、以下の3つの事を成し続け施設が持続できるようにしていきます。

「和順の里基本理念」を念頭に

- ① 安定した施設運営
- ② 働きやすい環境
- ③ 介護の本質の理解と技術の均一化

①安定した施設運営

1. 佛教大学と協働事業

施設開設に全面的な支援をいただき、実質的な開設者である佛教大学との連携を大切にし、以下の事業を協働、また今後の施設運営を行っていく上で新たな連携が出来るように努めます。

① 施設運営のアドバイス

施設運営について、20年を超えて改修工事に必要性が増えてきている。施設が健全に運営していくために必要な工事であり、アドバイス等の協力を得て連携していくように努めます。

② 季節行事への学生ボランティアの受け入れ

施設の二大行事であるさくら祭り、秋祭り等に佛教大学の学生ボランティアを募り、入居者の誘導や出店の手伝い等を担ってもらいます。

③ 実習生の受け入れ

佛教大学福祉学部社会福祉学科（通学及び通信課程）の社会福祉援助技術現場実習及び佛教大学保健医療技術学部看護学科の臨地実習等の受け入れ実習指導を行います。大学のカリキュラムに合わせて和順の里は実習を受け入れて協働していきます。

2. 施設収入と改修工事

○施設の収入を安定させるためには、入居者及びショートステイ利用者をいかに確保するかにかかっています。しかしながら、高齢者が増えているが昨今様々な施設が出来て入所確保することが、一段と困難になってきています。

施設の運営目標達成するには、活動的な営業努力と施設の強みを見出していかなければなりません。相談員中心に、全部署の連携によって施設稼働を上げて、安定した運営が行えるようにしていきます。空床利用も行いながら行っていきます。

長期目標：100床

ショート目標：8床

○改修工事が今後増えてきます。計画をかけて改修工事を行い施設設備の安定も行っていきます。

中長期改修工事資金計画書				
改修工事・及び必要工事	2026年度	2027年度	2028年度	3年間合計
	予算額	予算額	予算額	予算合計額
LED電気工事	230万	200万		430万
Wi-Fi工事とICT機器	600万			600万
ナースコール・電話工事		400万		400万
空調脱炭素工事	250万			250万
屋上防水工事			600万	600万

3. 職員の確保と環境

○介護職員は、育児休暇、定年等により介護職員が減ってきています。日本人採用は web を利用して採用していきます。外国人介護職員については日本人中心に採用しながら検討していきます。

正規介護職員数中長期採用計画					
正規介護職員 数目標		2026年	2027年	2028年	合計採用数
合計 45 名の 在籍となる	日本人	2	2	2	6名
	外国人	1	2	3	6名

○他部署職についても、相談員やケアマネジャーについても採用していきます。

○清掃業務についても採用困難になってきている。外部委託を行いながら運営していくようにしていきます。

②働きやすい環境

1. 昨年はパソコンの入れ替えを行いました。今年度も引き続き ICT を取り入れた環境を整えて入居者の安全を第 1 に考えて、施設職員の負担軽減にできる機器を取り入れることにより、働きやすい環境となるように取り組みます。
2. フロア・部署からの要望を受けて、業務負担軽減となるよう取り組みを引き続き行っていきます。

③介護の本質への理解と介護技術の均一化

福祉施設職員が少ない状況でも各自の介護の知識・考え・技術の均一化し、外国人も含めお互い高め、助け合っている施設職員を目指す。これは和順の里施設理念に通じます。

1. 介護への本質について、全部署の職員へ理解して業務に入ることができるよう説明し均一化していきます。
2. 介護・看護等の各部署の業務の見直し書面化する。介護技術についてもマニュアルを見直し各職員の介護技術の均一化を行う。

3. ケアサービスの基本の考えを理解「入居者の尊厳の保持と権利擁護」し、実践していく。

○ケアサービスの基本は、自立支援を目指した利用者本位の介護です。

和順の里職員として均一化中長期計画					
将来の目標	行う事	期限	スケジュール		
			2026年	2027年	2028年
介護の本質への理解と 介護技術の均一化。各 部署の業務の見えるか も行き、教えることが 出来る職員となる。	施設理念と事業計画の報告				
	介護の本質について書面化・説明	2026年			
	接遇についての書面化・説明	2026年			
	各部署の業務の書面化・見直し	2027年			
	介護のマニュアルの見直し	2027年			

*外国人も読めるように、振り仮名を付けて書面化とする。

2. 施設内研修の充実

職員一人一人が、自分の仕事の意味を理解し、人権を尊重した職業倫理に基づいた職業哲学（介護哲学）を持ちながら、介護知識を蓄え、技術を高めてステップアップしていくことです。忙しい日常の中で時間を見つけて、令和7年度はネットでの研修をさらに有効利用し施設内研修を充実し、それぞれの自己啓発の一助とし、職員の質の向上を図っていきたいと思います。各職員への面接を行いキャリアに応じた研修を提供し、介護の質向上に努めたいと思います。

令和7年度研修計画書

月	施設内研修会	全体研修	その他
4月		利用者の尊厳と権利擁護	令和8年度事業・予算説明会
5月	感染症対策	マナー研修	令和8年度事業・予算説明会
6月	救急救命	接遇研修 BCP 非常食訓練	
7月	リスクマネジメント 口腔ケア研修	ハラスメント研修 非常災害訓練	
8月	身体拘束・虐待		
9月	防災対策		
10月	褥瘡防止		
11月	リスクマネジメント	消防訓練①	
12月	身体拘束・虐待		

1月	感染症研修（演習） 口腔ケア研修		
2月	キャリアアップ研修	消防訓練②	
3月	看取り		

④その他

●地域社会への貢献

○一般の人たちにとって福祉の制度の使い方や、介護に関することはなかなか分かりづらいものです。地域住民を対象に介護を中心に福祉全般にわたる相談を受け付ける「相談窓口」を事務所内に置き、生活相談員等が丁寧に対応します。

○地域の中の施設として、地域で望まれていることは何かを佛教大学の先生や学生とともに調査して、当施設で地域還元できることを行っています。

○地元原谷地域の行事や祭りに参加させていただきました。今年度も入居者の安全を考えながら地域交流をしています。

○広報について、ネットからの広報にして地域の人たちに、和順の里への理解を深めていただくようにします。

○和順の里並びに佛教大学は、平成23年4月1日に地元原谷地域（区）連絡協議会並びに金閣社会福祉協議会自主防災部と災害発生時には、原谷地区に居住する介護の必要な高齢者および未就学児童のいる家庭を可能な限り受け入れる旨の「災害発生時の避難に関する各施設使用の覚書」を締結しています。

災害発生時には、可能な限りの地域協力を行います。

各部署の年間計画